

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200165		
法人名	株式会社 ライフステージ		
事業所名	グループホーム 織りがみ		
所在地	〒510-8031 四日市市川北1-11-11		
自己評価作成日	令和4年1月16日	評価結果市町提出日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>コロナ禍で外出がしにくい時期でも、テイクアウト等を活用して外食気分を味わってもらっていた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対策を施した上で面会や慰問にも取り組んできた ・寝たきりの利用者でも、社内サービスを活用して、湯船に浸かって、ゆったりと入浴できるようにしている ・共用デイサービスを活用して、本入居前に職員と利用者が慣れる時間を作り、スムーズに入居できるようにしている ・危険の気付きを気軽にヒヤリハットに書いてもらい、今後に繋がれるようにしている
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2490200165-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社		
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1		
訪問調査日	令和4年2月24日		

<p>玄関や施設回りにはボランティアの方々の協力で花や野菜が植えられ、日当たりのいい居間では、利用者がゆったり過ごしている。大きなテレビで、オンラインの体操やカラオケを楽しんでいる。調理や食後の食器洗いを楽しみながら手伝っている利用者もあり、見守りながら自由に過ごして貰っている。コロナの為、外出が制限されているが、天気の良い日は近くの公園を散歩したり、車窓ドライブ花見を楽しんでいる。職員は自分の親を入れたい施設を目標に、常に笑顔で利用者に寄り添った介護をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体ミーティングや個別ミーティングにて理念の確認・共有をしている。(予定)	「いつまでも頑固にそしてお元気で」の基本理念を職員で共有している。人生のお手伝いを心掛けて、その時々で利用者の家族や友人等になり、介護やサービスをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民との避難訓練や災害時の相互協力、共用デイサービスの実施をしてきた	コロナ以前はカフェや避難訓練等、地域との交流があったが、今年は近くの保育園から敬老の日のプレゼントを玄関で受け取り、施設からは利用者が「あまびえ」を折り紙で作ってお返しをした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会があれば、包括支援センター等の主催の研修に事例提供をしてきた(開設初期になるが)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で書面開催となる。行政からの回答も、運営に活かすようにしている	運営推進会議は現在開催されていないが、ミーティングやヒヤリハット、ホットハット等毎月市役所に送りアドバイスを貰っている。	運営推進会議の内容は市役所のみを送付しているが、家族や自治会や介護サービス相談員等、既定の参加メンバーにも送付し、返信欄を設け、広く意見や要望を聞きサービス向上に繋げるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	基本的には運営推進会議を通して適宜報告・相談している。	現在は電話での連絡が多いが、施設の空き情報など報告し合っている。利用者の入院中は、短期のショートステイを受け入れ、部屋をキープしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画の中で身体拘束に該当する関わり方研修や毎月のミーティングを通して学んでいる。身体拘束につながりかねない行為も避けられるように、話し合いをしている	身体拘束委員会を2ヶ月に一度開催し、マニュアルに沿って研修している。パスワードを入力すれば職員はスマホでも見る事が出来るため、フォローアップ研修ネット配信を利用して「しない」ケアの実践に役立てている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないように注意をしている。年間研修計画の中で虐待の種類、その防止に該当する関わり方を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者様がおられたので後見人とのやり取りを通して、制度を利用した場合の手順等について知ることができた。月ごとの研修でも権利擁護について扱うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明している。法改正(基準報酬・処遇改善)の時は、負担額の変更について、書面にて説明をしている。不明な点があれば、別に時間を取るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方と個別に話しをする時間を取っている。家族様とは、来訪時・ケアプラン作成時・運営推進会議、電話等で聞き取りを行っている。	今はコロナのため、家族の面会は少ないが、月に一度の資料の送付や電話連絡を行っている。家族同行の医療受診時には、職員が対応し要望や意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・個人面談等の時間を取り意見を聞くようにしている	月に一度のミーティング、個人面談、普段の話のやり取りの中から、何時でも意見や要望が言える雰囲気を作り、職員との信頼関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とは別に法人役員が個別に時間を取り個々の職員と面談をして意欲を持って仕事ができるようにサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内・外の研修は時間外、遠方でも会社負担にて行けるようにしている。会社内では、月に一回定期研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の主催の部会や医療・介護ネットワーク会議、研修等に参加して同業者の取り組みなどを聞くようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後、一週間ほどで職員からの聞き取りを行い、個別計画の中での具体的な対応方法に活かすようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の少しの変化や今後予測についてすぐにお伝えするようにしている。毎月、お便りを送るようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームが最適かも含めて考え、利用者様の状態に応じて他のサービスを勧めるときもある。歯科、マッサージ等のサービスも追加が必要なら提案している。リ用初期は共用デイサービスから開始するときもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などできることは入居者・職員関係なくしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連携医以外の病院定期受診は家族対応を原則としている。通信紙にて本人様のGHでの様子を発信している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様に加え親戚・知人の訪問、面会のための外出がある場合、それに合わせて服薬調整するなど、出来る限りのバックアップをしている。よほどの帰宅願望がない限り(主治医からの制限もない場合)、施設としての制限はない	ドライブ花見に出かけたり、以前住んでいた家や地域を廻り、自宅や馴染みの場所を見ることで、利用者の望郷の思いに応えている。今は、馴染みの店へもいけないので、希望を聞いてテイクアウトで対応している。今年は職員が手伝い、馴染みの人に年賀状を送った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のそばに常に職員が寄り添い、利用者様同士が関わり合い支え合えるようにしている。利用者同士の仲の良さ等も考慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された方で転居先施設からの問い合わせがあった場合等に情報提供するようにして相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・家族様・職員と話しをする時間を取り、個別ケアを取り入れている。個別記録は介護した内容だけでなく利用者が口にしたことも記録して利用者の意向がわかるようにしている。	介護度が上がっているため、コミュニケーションが取りにくい利用者が増えてきたが、入浴の時など何気ない日常の言葉から意向をくみ取るようにしている。ホットハット活動も行われて職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・家族様からの聞き取りを行っている 入居前のサービス関係者(ケアマネジャー、デイサービス等の相談員)からも聞き取りを行い、早期に慣れてもらえるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本日の行ったこと、取り組んだことを趣味・生活リハビリ・運動等のジャンルに分けて色付きシールで簡単にわかるようにしている。大まかな傾向をとらえて、得意不得意を知ることが出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族への聞き取り・ミーティングにて今後の取り組み、対応方法を話し合っている。介護計画には家族様への説明時の面談内容も付記し、決定の経緯がわかるようにしている。	6ヶ月に1度、管理者、ケアマネジャーと家族で話し合い、計画書を見直し作成している。利用者のモニタリングの記録は職員全員が共有し把握したうえで支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記入している。個々のケアの実践等は、自由に記入できる形式としてご家族の反応等も色分けして記入しているので総合的に評価出来るようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまで、自費にて訪問リハビリ、訪問マッサージを利用して、今必要なことをするようにしている。事業者負担で気功などもしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではあるが換気に留意しつつ慰問の機会も活用している。個別に短時間の外出などの機会を作るようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様の状態に応じて元々かかっていた病院など連携医以外にも受診対応することもある。連携医には職員が付き添って行っている。受診結果は家族様へ詳細に報告している。	歯科医とメンタルクリニックの訪問診療を受け、内科の協力医には職員が付き添い受診している。それ以外の受診は家族が同行するが、施設での情報や受診結果は密に連絡を取り合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今該当なし。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は地域連携室あるいは病棟に速やかに情報を持参して入院前の暮らしやADLが分かるようにしている。どこまで回復すれば退院後、受け入れられるか伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・家族様・連携医と話し合いを行い、本人様の延命は望まない等の意思を確認し希望を最大限に叶えるようにしている。延命はしないと決めていても、いざとなると異なる判断を出す場合もあるので必要な話し合いを重ねるようにしている。	契約時に本人や家族と話し合い、意向に沿うようにしている。看取り希望の利用者でも重度化したときは都度確認を重ね、意向を尊重するよう努めている。看取り指針を作成し、職員全体で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練などの機会に、社内研修を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施するようになっている。以前は運営推進会議を活用して、近隣住民の方と訓練を行っていたが、今は実践できていない	以前は消防署立会いで年2回の避難訓練を地域住民の協力のもと行っていたが、今年は実施出来ないため、消防署作成のDVDを取り寄せ、職員主導で行った。系列の施設と連携して職員が直ぐに駆けつけるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	精神疾患由来の認知症の方も入居されているので個々の既往歴、生活歴を把握するようにしている。人格を尊重しプライドを傷つけない話し方、声の大きさ等日々気を付けながら実践している。	聞こえ辛い、見えづらい等、一人ひとりの状況に合わせて、耳元で話す、分かるように話すなど工夫している。入所の理解が乏しい利用者には、誇りを損ねないよう、毎日一日分の荷物を渡し、宿泊と納得して過ごして貰っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人生観や価値観を常に共有しその意志を推定していきご本人の意思決定を尊重していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間的な余裕を作り、外出、軽食等も希望に合わせて出来るようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望に沿って毎日の服装やヘアスタイルを決めて頂き整容している。男性利用者様には毎日電気シェーバーにてひげ剃りをして頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来ることはして頂き楽しんで食事をして頂いている。個々の要望も取り入れながら様々な味付けの料理を提供し畑でとれた食材を使用している。テイクアウトも利用している	季節の野菜や食材を使い、利用者の希望を取り入れて職員が手作りしている。職員と一緒に盛り付けや片付けをしている人もいる。彩りや食器など目で見て楽しめる工夫もしている。希望の中華や寿司、洋食などを、テイクアウトし楽しんで貰うことも。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検査結果をふまえて必要な食材を摂って頂くように個別に対応している。定期的に体重を測りそれに合わせて食べる量を調整するようにしている。入浴後はスポーツドリンクを飲んで頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕口腔ケアを行い、義歯洗浄剤は職員が対応している。月2回、訪問歯科診療に来て頂き口腔ケア・治療、指導を受けている。うがいの出来ない方は、専用保湿ジェルを使用して口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄のタイミングを表で確認しトイレ誘導をしている。利用者様はトイレでの排泄ができています。必要に応じて居室にポータブルトイレを設置している。	排泄パターンをチェック表で把握し、全員がトイレで排泄出来るように支援している。入所時に紙パンツだった利用者が、布パンツと尿取りパッドに戻る事が出来た例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂ってもらっている。ご飯を雑穀米にしたり工夫し食物繊維を多めにとってもらっている。運動や散歩も取り入れている。下剤に頼らないように、医師に適宜相談しつつ、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午前中に行い個浴である。曜日は決めておいて一日の入浴人数を少なくし、利用者様の好みも考慮して、ちょうど良いタイミングでゆっくり入ってもらえるようにしている。	原則として週に3回だが、体調や気分、都合により調整している。入浴剤や好みの音楽をかけるなど、ゆっくり入浴を楽しんで貰っている。湯舟に入るのが困難な利用者には、系列施設の機械浴を使い支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長事後の目覚めは本人様の希望で昼寝をしてもらったり、夜に安眠出来るように活動参加に誘っている。就寝前にアロマで心身ともにリラックスしてもらったり、利尿作用のあるものは避けて安眠できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイル・個人記録にてその時の症状を把握している。居宅療養管理指導を利用して担当の薬剤師と協働をしている。薬の置き方等の工夫で飲み間違いを防ぐようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味を活かした作品などをフロアに掲示している。庭の水やりや家事など各々の役割が定着している。カラオケ機器も設置して楽しめるようになっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は外出先が限られているが、家族様の意見も取り入れながら一緒に外出・買物等に出かけている。本人様の希望で身体を動かす為の散歩や日光浴をしている。	今は外食や買い物など希望する所にはなかなか出かけられないが、暖かい日には近くの公園まで散歩に出かけたり、桜やコスモスの季節には車窓からではあるが、ドライブ花見を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書くことのできる方には、年賀状送付のお手伝いをするようにしている。また帰宅愁訴につながらないように配慮しつつ、電話でのやり取りを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	活動的に過ごせる場所・静かに過ごせる場所の空間を作っている。地域交流室が畳張りになっているので、くつろいで昼寝をしたりもできる。フロアには季節感のある飾り付けをしている	玄関にはボランティアが植えてくれた花が咲き、利用者は、毎日の水やりを楽しんでいる。明るく広い居間では、キッチンカウンター越しに職員の調理の様子を感じる事が出来る。続き部屋の畳敷きの和室には、雛人形が飾られ季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置を変えたり和室やカウンターで、個別で過ごせる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人ご家族にアドバイスし、普段使いの物を持ってきてもらったり、写真、置物を飾ったりして我が家の様に居心地良く過ごして頂いている。	個室には備え付けのクローゼットとベッドが設置されている。使い慣れた布団等を持って来てもらい、お気に入りの写真や置物を飾り、その人らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札を付け認識できるようにしている。利用者様のADLに合わせて介助バー、センサー等を使用するようにしている。寝起きの動作が安全に自力で行えるようにしている。		